

科目名 (英)	子どもの食と栄養 Nutrition for children	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	六角 はち美
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 5限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 20年以上にわたり病院・保育園・介護施設での栄養管理は勿論、献立作成や衛生管理・発注作業・栄養相談など幅広い経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 栄養学は体と食の関係性を学ぶ事が大切です。自分の体の中で起こっていることにまずは興味を持てるように、日常で行える体の変化を体験していただきます。 五大栄養素とはそれぞれどんな役割を持っていて、体に吸収される流れはどんな物なのかを体系的に学び、食べ物が体の一部になったり、エネルギーとして使われたりなどリアルに理解できるように身近な食材を使ってイメージしやすいように授業を進めて行きます。							
【到達目標】 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 日々自分の食事と体調の変化に意識を向け食と身体をつながりをリアルに感じる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 五大栄養素について全体的に説明することが出来る。 食事バランスガイドが使える。 【授業内容】 1年時の復習・栄養学の基本のふりかえり 食事バランスガイドを使って食事の振り返りをする			9	【到達目標】 現場での給食会議で自分の考えをプラスして案が出せるようになる。 【授業内容】 食育の基本(食育基本法、食育の意義など)について学ぶ。 行事食について学ぶ。		
2	【到達目標】 妊娠期の体(ホルモン)の変化と、どのような食生活が必要か説明できる。 【授業内容】 ライフステージ栄養① 妊娠期の体(ホルモン)の変化と産後に必要な栄養の知識を学ぶ。			10	【到達目標】 班ごとに考案した食育計画を実行表にできる。 【授業内容】 班ごとに行事食を考案し計画する。		
3	【到達目標】 乳児期(特に離乳食)の体や口腔の発達と必要な栄養素を説明できる 調理実習のイメージが出来る。 【授業内容】 ライフステージ栄養②乳児期の体の発達と必要な栄養素を学ぶ 実習に向けて衛生管理について確認し、実習内容についての説明を行う。			11	【到達目標】 計画した食育案を実行できるようになる。 調理実習のイメージが出来る。 【授業内容】 食育の計画の作成を行う。(実習のイメージをする) 子供達に行事食に興味を待たせるツールを考える。		
4	【到達目標】 栄養補完した分粥を作れるようになる。 【授業内容】 ライフステージ栄養③(調理実習) 乳児期(特に離乳食)の体の発達と必要な栄養素を学ぶ②			12	【到達目標】 班ごとに考案した行事食を作る 【授業内容】 調理実習		
5	【到達目標】 栄養補完した分粥を作れるようになる。 【授業内容】 ライフステージ栄養③(調理実習) 乳児期(特に離乳食)の体の発達と必要な栄養素を学ぶ②			13	【到達目標】 班ごとに考案した行事食を作る 【授業内容】 調理実習		
6	【到達目標】 幼児期の成長に必要な栄養素の特徴を説明できる。 【授業内容】 ライフステージ栄養④幼児期の成長を知り、栄養の摂り方全般を学ぶ。 実習の振り返りをする。			14	【到達目標】 各班の振り返りを通して、現場で活かせる食育行動を身に付ける。 実習の振り返りをする。		
7	【到達目標】 学童期の成長に必要な栄養素の特徴を説明できる。 【授業内容】 ライフステージ栄養⑤ 学童期の成長を知り、栄養の摂り方全般を学ぶ。			15	【到達目標】 第1回～14回授業についてしっかりと理解が出来ているか確認を行い、それぞれ説明できる。 【授業内容】 定期試験を行う。		
8	【到達目標】 1～7回目での内容が説明できる。 アレルギーについて自信を持って話を聞けるようになる。 【授業内容】 中間試験 食事由来アレルギーについて基礎知識を学ぶ。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 日常での体調チェックを行うようにしていくと、栄養の授業がより興味をもってうけられるようになります。							

科目名 (英)	保育内容の理解と方法 Understanding and method for Childcare contents	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	川村 美穂・浅子 元
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 6限
学科・コース	保育士科(夜間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士養成校にて24年のピアノ・音楽指導を行う。また保育園にてリトミック指導を16年行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
長年の音楽(ピアノ)教育の経験から、ピアノ・歌唱のほか、リトミック、打楽器演奏、オペレッタを2002年から専門学校にて指導している。 本科目は、1年次に習得した基礎的なピアノの実力を基に、リズム遊び・リトミックの初歩の段階を自ら実践し、指導ができるように学ぶ。また、オペレッタの製作と発表までの取り組みを通じて、チームで目的をもった活動を経験する。保育内容の充実や保育者の役割についても総合的に学ぶ。							
【到達目標】							
1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・「こどものうた200」チャイルド社 ・「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社				オペレッタ製作で学ぶ各演目の原作を読むことや、映画を観ることを推奨します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 オリエンテーション。前期で学習する内容と、年間到達目標を理解する。 【授業内容】 リトミック…(ティーチング)0歳児、1歳児のリトミックの活動を実演し習得する。			9	【到達目標】 オペレッタ製作④ 【授業内容】 「そんごくう」、「つるのおんがえし」の作成。クラス全体で実施する。		
2	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)1歳児、2歳児のリトミックの活動を実演し習得する。 【授業内容】 親子リトミック(1歳児、2歳児)で子どもたちが出来ること、出来ないことの理解をする。			10	【到達目標】 オペレッタ製作⑤ 【授業内容】 「そんごくう」、「つるのおんがえし」の作成。クラス全体で実施する。		
3	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)2歳児、3歳児のリトミックの活動を実演し習得する。 【授業内容】 幼児リトミック(2歳児、3歳児)。主張すること、こだわりや、積極的な参加の促しについて理解をする。			11	【到達目標】 オペレッタ製作⑥ 【授業内容】 「そんごくう」、「つるのおんがえし」の作成。クラス全体で実施する。		
4	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)4歳児、5歳児のリトミックの活動を実演し習得する。 【授業内容】 幼児リトミック(4歳児、5歳児)。子供たちに伝える工夫、大切な言葉の理解をする。			12	【到達目標】 オペレッタ製作⑦ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
5	【到達目標】 リトミック…(ティーチング)指導案の作成。4歳児のリトミックを考える。 【授業内容】 指導案を作成し、4歳児のリトミックのロールプレイングを実施する。			13	【到達目標】 オペレッタ製作⑧ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
6	【到達目標】 オペレッタ製作① 【授業内容】 「しらゆきひめ」、「ピーター・パン」の作成。クラス全体で実施する。			14	【到達目標】 オペレッタ製作⑨ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
7	【到達目標】 オペレッタ製作② 【授業内容】 「しらゆきひめ」、「ピーター・パン」の作成。クラス全体で実施する。			15	【到達目標】 オペレッタ製作⑩ 【授業内容】 「オズのまほうつかい」、「アラジン」、「竹取物語」の作成。		
8	【到達目標】 オペレッタ製作③ 【授業内容】 「しらゆきひめ」、「ピーター・パン」の作成。クラス全体で実施する。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子ども家庭支援論 Child and family care support	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	長崎 しのぶ
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 7限
学科・コース	保育士科(夜間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
幼稚園や認定こども園で幼稚園教諭・保育教諭として幼児教育や乳児保育に携わり、保育現場での保護者対応や子育て支援の経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、子育て家庭について理解を深め、保育士の専門性を活かした多様な支援を実践できるよう、実際のエピソードや様々な課題について理解・考察を深める。授業では、保育現場で行ってきた様々な保護者支援の体験から子ども家庭支援の重要性を理解し、専門職としての実践力育成につなげる。							
【到達目標】							
1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の『専門性』を活かした子ども家庭支の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」ミネルヴァ書房				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の進め方と評価の方法について理解し、子ども家庭支援の意義と必要性について自身の考えを記述することができる。 【授業内容】 オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性			9	【到達目標】 皆さんがグループで調べた資料をもとに「地域子ども・子育て支援事業について」支援の内容を理解し知識を深める。 【授業内容】 子育て家庭の経済的支援について、県多子家庭とは…？ 認定こども園とは？		
2	【到達目標】 子どもが育つということはどういうことなのか。子どもが育つ場としての家族・家庭について考え、理解を深める。 【授業内容】 子どもの育ちに対する家族・家庭の役割、子ども家庭支援の位置づけを理解しよう！			10	【到達目標】 子育て家庭を支援する視点で、実際に子どもと関わる姿を育児モデルとして示し、親に伝承する方法を知る。 【授業内容】 一伝承的な育児法を知り・伝承的な遊び(ふれあい遊び・わらべ歌)を実践してみよう！		
3	【到達目標】 子どもが育つ場としての家族・家庭の意義について理解を深め、近年大きく変化してきた家族のあり方・形態について説明ができる。 【授業内容】 子ども家庭支援の意義と役割			11	【到達目標】 現場に出るにあたり、子ども子育て支援制度による幼稚園・保育所・こども園等施設の法的な位置づけや基本的な知識を説明できる。 【授業内容】 子ども家庭支援の内容と対象		
4	【到達目標】 家族の動向について、近年大きく変化してきた「家族」の在り方、形態を理解したうえで現代の子育て困難を考えてみる。 【授業内容】 「子育て困難の現状」なぜ支援が必要？			12	【到達目標】 子育て家庭支援の目的を意義を理解し、相談援助にあたり保育士としての基本的な態度や姿勢について事例をもとに学ぶ。 【授業内容】 相談・援助にあたり保育士として大切にすべき態度・姿勢について実演を通して理解を深める		
5	【到達目標】 子育てを取り巻く環境が子どもの育ちや子育てにどのような影響を及ぼすのか。様々な角度から、子ども家庭支援を考える。 【授業内容】 子ども家庭支援の意義と役割 と子育て困難			13	【到達目標】 多様化する子育て支援ニーズについて理解し、今後の支援に関する課題と展望について考えを述べることができる。 【授業内容】 地域の子育て家庭への支援		
6	【到達目標】 第8回目に実施する中間試験(地域子ども子ども支援事業を調べ、発表資料の作成)に向けて調べ学習の準備を始める。① 【授業内容】 試料作成・発表の流れと担当を打合せ			14	【到達目標】 前期15回の学びをまとめ、子育て家庭の支援のあり方や保育者としての支援の方法や知識・考えをまとめることができる 【授業内容】 これまでの配布資料やグループワークを通しての気づきや学びを振り返りシートにまとめましょう！		
7	【到達目標】 第8回目に実施する中間試験(地域子ども子ども支援事業を調べ・発表資料の作成)に向けて調べ学習を進め、準備を始める。② 【授業内容】 試料作成・発表の流れと担当を打合せ			15	【到達目標】 子育て家庭の今を知り理解すること、社会に目を向けること！求められている支援についてこれまでの学びを振り返りましょう 【授業内容】 子ども家庭支援に関する現状と課題・定期テスト		
8	【到達目標】 結婚・妊娠・出産・子育てと家庭の状況の変化に伴い、段階に応じてどのような公的支援があるのか具体的に説明ができる。 【授業内容】 中間試験ー皆さんの発表をもとに支援の内容を理解するー			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	障害児保育 Disabled Children Instruction	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	平田 純一
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 5限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
福祉型障害児入所施設での実務経験10年以上児童発達支援管理責任者として働いている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目は、障害児保育の基本理念や歴史の変遷について理解を深め、個々の特性を理解し、その保育の実際や援助、家庭や関係機関との連携について学ぶ。学生はこの授業を通して障害のある子どもの保育の方法を知り、包括的な支援方法を学んでほしい。多様な発達特性を理解し、生きづらさや困り感を覚える子どもの環境や周囲のネットワークづくりの重要性を知り、連携の上で活かせる計画と記録の策定方法をグループワークを通して学べるように指導する。							
【到達目標】							
1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
				授業ノートを定期的にまとめ、学びを確かめる習慣を身につけること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の目的を理解することができる。 障害児保育を支える理念 【授業内容】 オリエンテーション・講師自己紹介 「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷			9	【到達目標】 言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 【授業内容】 中間テスト 言語障害の特徴・支援		
2	【到達目標】 障害児保育を支える理念 【授業内容】 合理的配慮の理解と障害児保育の基本 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる課題			10	【到達目標】 言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 【授業内容】 場面緘黙の特徴・支援		
3	【到達目標】 障害児保育における制度と理解 【授業内容】 障害福祉サービスの意義と目的 多職種連携と保育者の役割			11	【到達目標】 発達障害児の理解と支援ASD 【授業内容】 ASDとは ASDのある子どもの特徴・支援		
4	【到達目標】 知的障害児の理解と支援 【授業内容】 知的障害児の支援			12	【到達目標】 発達障害児の理解と支援ADHD・SLD 【授業内容】 ADHDのある子どもの理解と支援 SLDのある子どもの理解と支援		
5	【到達目標】 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援 【授業内容】 肢体不自由児の理解と支援			13	【到達目標】 発達障害児の理解と支援 【授業内容】 改めて発達障害とは		
6	【到達目標】 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援 【授業内容】 重症心身障害児の理解と支援 医療的ケア児の理解と支援			14	【到達目標】 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助 【授業内容】 子ども虐待 多文化共生の保育		
7	【到達目標】 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援 【授業内容】 視覚障害児の理解と支援			15	【到達目標】 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助 【授業内容】 定期試験 社会的養護児童の支援		
8	【到達目標】 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援 【授業内容】 聴覚障害児の理解と支援			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会的養護Ⅱ InstitutionⅡ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	大塚 貴博
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 児童養護施設の職員として20年超の現場経験。埼玉県の子どもの養育施設等の現場職員団体に7年間代表を経験。児童養護施設の施設長としてR7年度より勤務。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目では、社会的養護Ⅰの内容をもとに、社会的養護Ⅱで抑えるべきテーマを意識しながら授業を行う。授業テーマの学習は簡潔にし、学生が授業テーマのイメージを作ること に重点に置く。 出来る限り主体的な理解につながるよう、実践と概論を繋ぐ、葛藤と概論を繋ぐ、事例と概論を繋ぐことを講師の現場経験や視点を基に展開していく。							
【到達目標】 1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。3. 社会的養護における計画・記録・ 自己評価の実際について理解する。4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅰ」みらい				【授業外における学習】 学生自身の保育園等での実践がある場合は、そこでの取り組みを通して感じたものを授業で表現してほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 社会的養護を学ぶ動機を明確にし、権利擁護と被措置児童等虐待を理解する。 【授業内容】 施設内虐待の構造とマルトリートメントを概説し、アドボカシーや意見箱を通じた権利擁護の実践例を学ぶ。			9	【到達目標】 アセスメントの視点と手法を習得し、根拠に基づいた個別支援計画の策定プロセスを理解する。 【授業内容】 自立支援計画票の実際の書式を使用し、自立支援計画の実践を学ぶ。		
2	【到達目標】 こどもが施設入所に至るまでの生活背景を理解し、事例や数値からその多様性と共通点を分析できる。 【授業内容】 実際の事例について学ぶ。入所に至るまでの多角的な背景と経過を学ぶ。			10	【到達目標】 記録の意義を理解し、ICTを活用した効率的かつ客観的な手法を習得する。自己評価の意義、手法を知る。 【授業内容】 記録の書き方、活用方法を実際の資料を基に学ぶ。実際に行っている自己評価について知る。		
3	【到達目標】 施設での日常生活支援の意義を理解し、集団生活の中で生じるこどもと職員双方の葛藤を捉える視点を養う。 【授業内容】 実際の生活空間の写真を活用し、家庭養育との差異や施設を家にするための創意工夫と制限の実践を学ぶ。			11	【到達目標】 社会的養護を担う職員に求められる専門性と倫理観を理解し、自己研鑽と成長のプロセスを認識する。 【授業内容】 施設長として採用・育成の視点を紹介し、新任職員が直面する壁とそれを乗り越えるための専門性の形成を学ぶ。		
4	【到達目標】 心理的支援の目的と養育者支援の重要性を理解し、多職種連携がケアの質に与える影響を認識する。 【授業内容】 心理士による具体的なアプローチ事例を紹介し、日常生活支援から養育者支援の必要性を学ぶ。			12	【到達目標】 相談援助の体系を理解し、児童相談所・学校・医療等の関係機関との具体的な連携を学ぶ。 【授業内容】 意見が対立するカンファレンス場面の再現を通じ、多職種連携における専門職の役割を理解する。		
5	【到達目標】 退所後のアフターケアにおける現状と課題を把握し、自立支援における支援の連続性の重要性を理解する。 【授業内容】 施設退所後の事例を通じ、「自立」の本質を問い直し、施設が果たすべき継続的な伴走支援の在り方を学ぶ。			13	【到達目標】 ジェノグラム等の作成技術を習得し、事例検討を通じてこどもを取り巻く環境を分析する力を養う。 【授業内容】 ジェノグラムを実際に作成しする。匿名化した事例を基に支援方針の検討手法を演習形式で学ぶ。		
6	【到達目標】 児童養護施設等の職員配置や勤務実態を把握し、現場で働く職員としての動きを具体的にイメージできる。 【授業内容】 施設の24時間の動きと職員の役割を例示し、日常業務やイレギュラー時の対応など、現場のリアルを学ぶ。			14	【到達目標】 こどもを中心とした家庭支援を知る。親子再統合の困難さと、意思決定のプロセスを学ぶ。 【授業内容】 家族再統合に向けた具体的なステップと、それが叶わない場合の家族との関係構築の在り方を考える。		
7	【到達目標】 多様な施設形態(障害児施設等)の機能を理解し、領域を越えた支援の連続性と専門性の広がりを学ぶ。 【授業内容】 各施設の特性と対象児の特徴を整理し、こどもの状態に応じた施設間移行や多分野連携の必要性について考える。			15	【到達目標】 社会的養護の現状と将来ビジョンを総括し、専門職として現場に向き合う自らの志を再確認する。期末試験。 【授業内容】 最新の施策や課題を整理し、社会的養護の意義と可能性を再確認することで、次世代を担う専門職としての決意を固める。期末試験。		
8	【到達目標】 里親等の家庭養護制度を体系的に理解し、施設養護との適切な役割分担と連携の在り方を習得する。中間試験。 【授業内容】 施設から里親への委託事例を知る。家庭養護移行後の支援の在り方を学ぶ。中間試験。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育実践演習 Professional skill	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	遠藤 美樹
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 7限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 保育士資格、幼稚園教諭取得後、保育園で10年勤務し2024年から埼玉福祉保育医療専門学校の保育科で保育内容演習、保育内容実践の授業経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、子どもの発達に必要な活動について、学生自身が計画・実践・振り返りを行い、実践的に学ぶ。学生はこの授業から保育の理解を深め、現場力を身につけて欲しい。また、グループワークを通じて保育現場に必要な相互理解の力を養って欲しい。							
【到達目標】 1. 保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 自己の課題を明確化し、保育に必要な基礎的な資質、能力を定着させる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 前期の授業の概要を理解する。 素材が持っている特性を知り、遊びの幅を広げる。 【授業内容】 オリエンテーション 素材遊び・感触遊び			9	【到達目標】 サーキットの組み立て方や身の回りの物を使った運動遊びについて学ぶ。 【授業内容】 運動遊びについて		
2	【到達目標】 折が持つ特性や子どもへの伝え方について学ぶ。 遊びや表現の場での使い方について知る。 【授業内容】 四季のおりがみ紹介			10	【到達目標】 わらべうたに関する知識を付ける。 実際に他者に行いながら力加減や動作を覚える。 【授業内容】 わらべうた紹介・実践		
3	【到達目標】 保育者のねらい・心掛けていることに焦点を当て実習日誌を作成する。 季節に合った制作をねらいを意識しながら完成させる。 【授業内容】 (5歳)6月のシアター・制作『時の記念日』 日誌作成			11	【到達目標】 行事の際の保育者の配置・出し物の決め方などを知る。 行事ならではの特別感をどう演出するのかを知る。 【授業内容】 誕生日会体験・企画書作成・準備		
4	【到達目標】 保育者のねらい・心掛けていることに焦点を当て実習日誌を作成する。 季節に合った制作をねらいを意識しながら完成させる。 【授業内容】 (2歳)6月絵本・制作『かえるのうた』 日誌制作			12	【到達目標】 指導案を基に計画的に準備を行う。 役割分担を行う。 【授業内容】 誕生会準備		
5	【到達目標】 保育現場にある玩具のねらいや安全性について学ぶ。 作りたい玩具を選択し、試行錯誤しながら制作する。 【授業内容】 手作り玩具作成			13	【到達目標】 本番に向けて予行練習を行う。 【授業内容】 誕生日会準備		
6	【到達目標】 実習をイメージし、5歳児が楽しめる保育内容を考え指導案を作成する。 安全面や保育者の専門性が活かされた内容を考える。 【授業内容】 保育実践(朝の会～活動)の指導案作成・準備			14	【到達目標】 誕生日会ならではの特別感や全年齢が楽しめる内容を考え実践する。 子ども達と対話をしながら進めることのできる心の余裕を持つ。 【授業内容】 定期試験:誕生日会実践		
7	【到達目標】 指導案に基づいた保育実践を行う。 子ども役の反応を見ながら臨機応変に対応する。 【授業内容】 中間試験:保育実践(朝の会～活動)・実習日誌作成			15	【到達目標】 誕生日会ならではの特別感や全年齢が楽しめる内容を考え実践する。 子ども達と対話をしながら進めることのできる心の余裕を持つ。 【授業内容】 定期試験:誕生日会実践		
8	【到達目標】 指導案に基づいた保育実践を行う。 子ども役の反応を見ながら臨機応変に対応する。 【授業内容】 中間試験:保育実践(朝の会～活動)・実習日誌作成 日誌の確認			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子ども家庭福祉 Child and family welfare	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	牛島 いづみ
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 5限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
乳児院、児童養護施設にて、保育士、里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員として20年の勤務経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目では、子ども家庭福祉について基礎的理解を深めるとともに、現代社会において子どもがおかれている現状を把握し、多様な課題を主体的に捉え、考える力を養う。被虐待児や養育困難家庭の乳幼児支援、関係機関との連携、家庭支援・里親支援に携わってきた実務経験を活かし、現場の事例を通して学生自身の価値観や自己覚知、気づきを大切にする学びの機会を設け、保育士として子どもや家庭を多角的に捉え、相手を尊重し関わる姿勢を身につけられるような授業を行う。							
【到達目標】							
1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。2. 子どもの人権擁護について理解する。3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅰ」みらい				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の進め方、授業の目的を理解できる。 子ども家庭福祉の理念と基本概念を説明できる。 【授業内容】 子ども家庭福祉の理念と概念 現代社会における子ども家庭福祉の意義			9	【到達目標】 子ども親・家族親の多様性を知り、子どもと家族が抱える複合的課題を多角的に捉えて理解できる。 【授業内容】 貧困家庭の子どもへの支援、外国籍の子どもとその家庭への対応 多様な保育ニーズへの対応		
2	【到達目標】 日本および諸外国における児童福祉の歴史を学び、子ども家庭福祉の歴史の変遷を説明できる。 【授業内容】 子ども家庭福祉の歴史の変遷 現代社会と子ども家庭福祉			10	【到達目標】 子ども虐待およびDVの基礎知識を説明でき、予防と支援の視点を理解できる。 【授業内容】 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止		
3	【到達目標】 子どもの人権擁護の考え方の変遷を理解できる。 児童の権利に関する条約の基本原則を説明できる。 【授業内容】 子どもの人権擁護と現代社会における課題 児童の権利に関する条約			11	【到達目標】 社会的養護の必要性を理解し、背景を多角的に考察することができる。 非行問題を抱える子どもへの支援を考察することができる。 【授業内容】 社会的養護 少年非行等への対応		
4	【到達目標】 法律が子ども家庭福祉の現場でどう活かされるかを知り、子ども家庭福祉に関する主要な法制度を説明できる。 【授業内容】 子ども家庭福祉の制度と法体系			12	【到達目標】 少子化に対する施策の動向と地域の役割を考察できる。 【授業内容】 少子化と地域子育て支援		
5	【到達目標】 子ども家庭福祉の実施主体と役割を理解できる。 要保護児童への支援の流れを理解し、説明できる。 【授業内容】 子ども家庭福祉の実施体系			13	【到達目標】 次世代育成支援や地域連携にみられる子ども家庭福祉の動向と展望を理解し、自身の考えをまとめることができる。 【授業内容】 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進		
6	【到達目標】 児童福祉施設の種類と役割を説明できる。 子ども家庭福祉に関わる専門職の役割を理解できる。 【授業内容】 児童福祉施設 子ども家庭福祉の専門職			14	【到達目標】 子ども家庭福祉に関わる専門職にはどのようなものがあるかを理解し、実践場面における連携、協働の必要性について考察できる。 【授業内容】 地域における連携・協働とネットワーク		
7	【到達目標】 これまでの学習内容を整理し、語句の記述及びそれらの説明をすることができる。 【授業内容】 中間試験			15	【到達目標】 学びを振り返り、保育士として大切にしたい子ども家庭福祉について、自身の考えをまとめることができる。 【授業内容】 定期試験 定期試験振り返り		
8	【到達目標】 母子保健の役割と子どもの健全育成を理解できる。 障害児支援の基本的視点を理解できる。 【授業内容】 母子保健と子どもの健全育成 障害のある子どもへの対応			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	幼児体育指導法 Instruction skills for child sports	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 直美
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 幼児体育指導員として39年間携わり現在も幼稚園・保育園で指導を実施し会社経営及び幼稚園園長を務める。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 自らの目指す専門職として身につけることは何かを考えながら受講してほしい。講義がメインとなる授業のため復習をしっかりと授業に臨んでほしい。							
【到達目標】 ・子どもの発達特性を理解しながら保育現場やスポーツ現場で、運動指導を行うための基本的な理論や実践方法を理解することができる。 ・身近な道具や歌・手遊びに合わせた演習や配慮を必要とする子どもへの運動指導法について指導計画を立てることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「元気な子どもを育てる幼児体育」(教科書)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 幼児体育の必要性を理解し楽しさと難しさを知る。また、幼児体育への感心を深める。 【授業内容】 ガイダンス・職業としての幼児体育の現状を知る・幼児体育の特性について理解する			9	【到達目標】 障害児への対応について理解し感心を持つ。 【授業内容】 近年の現象について把握し今後の課題について考える		
2	【到達目標】 脳の発達発達について理解し、幼児体育の適切な運動処方を知る。 【授業内容】 人間の脳の重さと年齢による変化について・年齢による脳の発達状況について・生活習慣の変化について			10	【到達目標】 幼児の運動と安全管理について理解を深める。 【授業内容】 RICEについて・安全への注意点・安全面への働きかけ		
3	【到達目標】 幼児体育と心身共に調和的な発達について理解する。 【授業内容】 幼児の運動は情緒の安定と発達を促進する・ミルキングアクション現象と幼児体育の関連性・生活習慣と成長について			11	【到達目標】 各運動種目の段階について理解する。 【授業内容】 種目別段階表の作成		
4	【到達目標】 子どもの身体と運動機能の発達について理解する。 【授業内容】 スキヤモンの発達発達曲線から見た幼児体育について			12	【到達目標】 親子体操の必要性について理解し楽しさを知る。 【授業内容】 家庭環境の変化と幼児体育の必要性・幼児の発達発達に与える親の役割分担・実際の親子体操のVTRを観る		
5	【到達目標】 運動能力の低下と幼児体育の必要性について理解する。 【授業内容】 なぜ幼児体育が求められているのか・運動能力低下現象の実態			13	【到達目標】 各運動の補助方法や進め方を理解する。 【授業内容】 具体的な指導VTRを観てイメージを抱く		
6	【到達目標】 運動能力の区分について理解する。 【授業内容】 運動能力と運動因子について・幼児期の運動因子と精神面の関連性について			14	【到達目標】 カリキュラム作成の留意点・注意点などについて理解する。 【授業内容】 指導に日案作成について		
7	【到達目標】 運動能力の区分と体力向上について理解する。 【授業内容】 運動能力の区分について理解し体力はいつごろ発達するのか・随運動とは			15	【到達目標】 わからない問題について洗い出し、問題を解決する。 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 段階指導の必要性和褒める指導について理解する。 【授業内容】 運動の領域と幼児体育における段階指導とは・意欲を育てる幼児体育の進め方			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子ども家庭支援の心理学 Psychology of Child and family care	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	八木 ゆかり
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 7限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
障がい児者施設、保育所保育、保育園園長、保育アドバイザー、保護者支援等「保育・教育・福祉」分野での経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践を中心に習得できる授業を行う。 生涯発達の理解を踏まえ、家族・家庭・親子関係の理解を深め、家庭の支援について体系的に学習する。実践事例を織り交ぜながら、実際に支援をする際、子どもの発達段階に応じた対応ができるよう学習を進めていく。							
【到達目標】							
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 『実践に活かす保育の心理学』原口喜光/編著 ミネルヴァ書房				【授業外における学習】 日常で見かける家族・親子の様子を観察したり、またPC・書籍・TV等で気になった事柄について考える習慣を身に付ける(問題意識を持つ)。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・乳児期の発達の特徴について説明できる ・乳児期の発達を踏まえた関わり方について学ぶ 【授業内容】 ・乳幼児の言葉の発達等について学ぶ ・事例を通して考察する(グループワーク)			9	【到達目標】 ・『家庭と仕事』に関する問題を調べ、考察する ・『親としての育ち』を支援する保育者の役割を理解できる 【授業内容】 ・『家庭・子育てと仕事』に関するワードをもとに調べ学習する		
2	【到達目標】 ・幼児期の認知、言葉の発達について説明できる ・幼児期の発達を踏まえた関わり方について学ぶ 【授業内容】 ・幼児期の認知発達等(心の理論)について学ぶ ・事例を通して考察する(グループワーク)			10	【到達目標】 ・家庭を取り巻く『地域社会』における子育ての問題点を知る ・地域における子育て支援の必要性を知る 【授業内容】 ・家庭を取り巻く『地域社会』の変化を調べ、考察する ・子ども・子育て新制度の概要について学ぶ		
3	【到達目標】 ・幼児期の社会性、自我の発達について説明できる ・幼児期の発達を踏まえた関わり方を述べる 【授業内容】 ・事例を通して考察する(グループワーク)			11	【到達目標】 ・多様化する家庭の在り方、家族関係について理解する 【授業内容】 ・ひとり親家庭、ステップファミリー、里親家庭について学び、支援について調べる		
4	【到達目標】 ・学童期の認知、社会性、自己の発達について説明できる ・幼児期から学童期へ移行する上での諸問題について考える 【授業内容】 ・幼児期から小学校教育との接続、保幼小の連携について具体的な取り組みを調べ考察する			12	【到達目標】 ・虐待傾向の家庭の予防的支援、障がいのある子どもと保護者への支援について理解する 【授業内容】 ・虐待してしまう親への支援の必要性を踏まえ、ペアレントプログラムを調べる ・親が子どもの障がいを受容する過程に寄り添う支援について学ぶ		
5	【到達目標】 ・青年期の発達の特徴について説明できる ・青年期の発達課題について理解できる 【授業内容】 ・青年期の認知、自己の発達について学ぶ ・青年期の対人関係の変化、臨床的課題の近年の変化を取り上げ考察する			13	【到達目標】 ・子どもの生活・成育環境とその影響について理解する 【授業内容】 ・乳幼児期の子どもの育ちの基本について学ぶ ・『様々な世代が集う地域の居場所づくり』の意義について考察する		
6	【到達目標】 ・生涯発達の視点から成人期・中年期・高齢期の発達について説明できる ・成人期・中年期・高齢期における発達課題について理解する 【授業内容】 ・成人期・中年期・高齢期における発達理論について学ぶ ・高齢者との関わり、一世代間交流の取り組みについて調べ考察する			14	【到達目標】 これまでの14回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ確認する 【授業内容】 ・発達が気になる子どもをどのように捉えるか		
7	【到達目標】 ・家族に定義・機能の変化について説明できる ・なぜ現代社会で家庭支援が求められるのか考える 【授業内容】 ・家庭の定義、多様化する家族形態、家族の教育機能・保護機能、これらの変化を踏まえ、家族支援の必要性を知る			15	【到達目標】 ・ここまで習得してきた知識や考察ポイントを確認する 【授業内容】 ・定期試験 ・定期試験の振り返り		
8	【到達目標】 1回目～7回目までの内容を理解について振り返り、理解できなかった事柄を確認する 【授業内容】 ・中テスト ・中テストの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	選択ゼミ	必修 選択	選択必修	年次	2年	担当教員	平野 由美子・石井 彩子
	Seminar for professional training	授業 形態	演習	総単位 時間	60	開講区分	前期
学科・コース	保育士科(夜間主コース)					曜日・時間	金曜 5・6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
幼稚園や児童発達支援事業所及び児童発達支援センターで勤務、施設長、児童発達支援管理責任者、保育所等訪問支援の経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
幼児教育および児童発達支援の現場経験を踏まえ、子どもの発達の基本や発達の多様性、障害の特性について理解を深める。あわせて、保育・教育の場における合理的配慮の具体例を学び、担当教員が現場で得た経験や「当時知っていたらよかった」と感じた知識も共有しながら、実践に結びつく視点を身につける。子どもが「この世界は楽しい」と感じて生きていくために、周囲の大人や環境はどのように関わるとよいのかを対話を通して考える。							
【到達目標】							
① 発達の多様性や障害の基本的な特徴について理解し、子どもの行動を「困った行動」ではなく「理由のある行動」として捉えようとする視点をもつことができる。 ② 障害のある子どもが安心して過ごせるための関わり方や合理的配慮の基本を理解し、遊びや日常場面での具体的な支援の例を説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 随時配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 年間の授業をイメージし、授業の目的と学びの視点を知る 【授業内容】 授業概要と現場事例の紹介			9	【到達目標】 共に遊ぶ関係づくりを考える 【授業内容】 インクルーシブな遊び ロールプレイ、ディスカッション		
2	【到達目標】 障害の基本的理解を深める 発達の個人差を理解する 【授業内容】 発達の多様性と凸凹 ASD・ADHD等の基礎理解			10	【到達目標】 環境づくりの視点を持つ 【授業内容】 子どもを支える環境 ロールプレイ、ディスカッション		
3	【到達目標】 行動の背景を考える視点を持つ 【授業内容】 困り行動の見方 ABAってなんだろう			11	【到達目標】 感覚の違いを体験する 感覚統合について理解する 【授業内容】 特別講師(作業療法士) 感覚統合について知る・感覚過敏疑似体験		
4	【到達目標】 子どもの困り感に気づく 【授業内容】 行動観察のポイント ロールプレイ、ディスカッション			12	【到達目標】 保育園や施設の実態を知る 【授業内容】 保育園・施設見学		
5	【到達目標】 合理的配慮の意味を理解する 保育場面での配慮を考える 【授業内容】 合理的配慮の基礎・環境調整の具体例 ロールプレイ、ディスカッション			13	【到達目標】 それぞれ見学してきた施設の様子を共有する 【授業内容】 成果発表・ロールプレイ、ディスカッション		
6	【到達目標】 支援の工夫を考える 【授業内容】 環境調整ワーク ロールプレイ、ディスカッション			14	【到達目標】 ミニ支援計画づくり 【授業内容】 学びを実践につなげる ミニ支援計画を作ってみる		
7	【到達目標】 子どもへの関わり方を知る 【授業内容】 支援的声掛けの工夫 ロールプレイ、ディスカッション			15	【到達目標】 前期の学びを振り返る 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 遊びの意味を理解する 【授業内容】 遊びと発達の関係 ロールプレイ、ディスカッション			【評価について】 実技試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 全ての授業の最初に、保育の現場で生きるリズム遊びや集団遊びなどを行い、アイスブレイクとする。							

科目名 (英)	保育内容演習 Seminar for Contents of Early Childhood Care and Education	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	大山華奈 牛島いづみ
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 集中
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 保育士・社会福祉士として保育現場での実務経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、保育所保育指針における「保育の目標」等を理解し、保育内容について全体的な構造を学ぶ。1年次の学びを活かし、より積極的に情報収集し、自身で考察した内容を全体に共有できるように表現力を磨いていくことを目的とする。							
【到達目標】 ①保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ②保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。 ③観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。 ④養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 ⑤保育の多様な展開について具体的に学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本」				【授業外における学習】 校外授業・レポート			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1 4月6日 (1限)	【到達目標】 授業内容、スケジュールを理解し、今後の計画を立てる。 【授業内容】 授業オリエンテーション コミュニケーションゲーム			9 (4限)	【到達目標】 校外学習で得た学びを振り返り、課題を明確にしてレポートを作成する。 【授業内容】 個人ワーク、グループワーク		
2 (2限)	【到達目標】 クラスの仲間と共通の認識をもって、ひとつの課題に取り組む。(保育現場で求められるチームワークについて) 【授業内容】 クラス的环境整備(席替え・掃除当番・号令係)			10 (5限)	【到達目標】 発表を通して、自身の学びの成果を再確認し、仲間の思いを共有する。 今年度の自分なりの目標を言語化する。 【授業内容】 全体での発表・傾聴 振り返り		
3 (3限)	【到達目標】 一年を振り返り、成長を実感する。 次の目標につなげるための土台をつくる。 【授業内容】 個人ワーク(印象に残っていること、頑張ったこと、大変だったこと、成長したと 感じることを振り返る)			11 4月10日 (3限)	【到達目標】 保育業界について調べ、自身の進路についてイメージする。 【授業内容】 就職活動のやり方、業界調べ		
4 (4限)	【到達目標】 仲間の経験を知り、視野を広げる。 お互いを認め合う関係性が育つ。 【授業内容】 グループワーク 個人の振り返りをもとにグループで共有し、振り返り年表を作成する			12 (4限)	【到達目標】 保育業界について調べ、自身の進路についてイメージする。 【授業内容】 就職活動のやり方、業界調べ		
5 (5限)	【到達目標】 発表を通して、自身の学びの成果を再確認する。 【授業内容】 全体での発表・傾聴 共通点や違いを見つける			13 (5限)	【到達目標】 さくらグループの就職説明会に参加し、保育園への理解を深める。 【授業内容】 さくらグループの就職説明会		
6 4月7日 (1限)	【到達目標】 課題の研究材料を見つける。 【授業内容】 校外授業(大宮公園)			14 (6限)	【到達目標】 さくらグループの就職説明会に参加し、保育園への理解を深める。 【授業内容】 さくらグループの就職説明会		
7 (2限)	【到達目標】 課題の研究材料を見つける。 【授業内容】 校外授業(大宮公園)			15 (7限)	【到達目標】 1年間の学びの成果を後輩に伝え、本科目の総振り返りが出来る。 【授業内容】 1・2年生合同授業。		
8 (3限)	【到達目標】 校外学習で得た学びを振り返り、課題を明確にしてレポートを作成する。 【授業内容】 個人ワーク			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	カウンセリング演習 Counseling Studies	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	川口 麗
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 5限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
カウンセラー資格を持つ美術教員として、園児、児童との何気ない会話から心のケア、サポートを行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目はカウンセリング理論から派生し、様々な境遇において、より実践的かつ具体的な学びを深めるものである。また、相談される側にとどまらず、自身を内観することでセルフマネジメントのスキルを養う。カウンセリングという型式だけではなく、日常的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うためには、どのようなアプローチが出来るのか、気づきを得る時間に行うことができる。							
【到達目標】							
・対人援助職を目指す者として、カウンセリングの技術を身につける。 ・子どもや保護者を援助するうえで、適切な判断や対応につなげるプロセスを理解する。 ・自身の思考の癖や、認知を知り、客観的に柔軟に捉えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・教員が資料を提示、配布する。				家、学校、職場において積極的にコミュニケーションをはかる様、心がけましよう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の進行方法、評価基準を理解する。カウンセリングの理論を知る。 【授業内容】 講義、小テスト。			9	【到達目標】 アートセラピーについて理解する。 【授業内容】 講義：アートセラピーとは。その役割とは。SOSを含む表現について。中間試験解説。		
2	【到達目標】 カウンセリングの技法、心得を知る。 【授業内容】 講義、演習「受容・共感・うなずき・くり返し」			10	【到達目標】 職場で、同僚と良好な関係を築くことを考察する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」		
3	【到達目標】 発達症について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			11	【到達目標】 ①保護者との関わりについて考察する。日常的対応、面談について考察する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」連絡帳の活用練習。		
4	【到達目標】 子どもの喧嘩について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			12	【到達目標】 ②保護者との関わりについて考察する。怒り、クレーム対応について考察する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」		
5	【到達目標】 不登校(園)について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			13	【到達目標】 精神科、児童精神科、心療内科、投薬について理解する。 【授業内容】 講義：プラシボ、ノセボ効果。医療機関との連携。投薬の慎重性。		
6	【到達目標】 子どものいじめ・意地悪について理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			14	【到達目標】 自分の整え方、ストレスとの向き合い方について考察する。 【授業内容】 講義：アドラー心理学、腹式呼吸、マインドフルネス。		
7	【到達目標】 トラウマについて理解する。 【授業内容】 講義、演習「グループワーク」			15	【到達目標】 これまでの学びを整理して、試験に取り組むことができる。 【授業内容】 定期試験。ノート提出。		
8	【到達目標】 臨床美術について理解する。 【授業内容】 講義、演習「アートセラピー」			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							
各自、B5ノートを1冊準備してください。							

科目名 (英)	保育内容の理解と方法 Understanding and method for Childcare contents	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	川村 美穂・浅子 元
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 6限
学科・コース	保育士科(夜間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士養成校にて24年のピアノ・音楽指導を行う。また保育園にてリトミック指導を16年行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
長年の音楽(ピアノ)教育の経験から、ピアノ・歌唱のほか、リトミック、打楽器演奏、オペレッタを2002年から専門学校にて指導している。 本科目は、1年次に習得した基礎的なピアノの実力を基に、リズム遊び・リトミックの初歩の段階を自ら実践し、指導ができるように学ぶ。また、オペレッタの製作と発表までの取り組みを通じて、チームで目的をもった活動を経験する。保育内容の充実や保育者の役割についても総合的に学ぶ。							
【到達目標】							
1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「こどものうた200」チャイルド社 ・「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社				【授業外における学習】 オペレッタ製作で学ぶ各演目の原作を読むことや、映画を観ることを推奨します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 オリエンテーション。後期で学習する内容と年間到達目標を理解する。保育の現場で取り上げられるオペレッタのマネジメントを学ぶ。 【授業内容】 「竹取物語」内容の理解。			9	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。製作班の確認。		
2	【到達目標】 オペレッタ活動 保育所・幼稚園におけるオペレッタ活動について。「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)			10	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。オペレッタ発表会のチラシ作成。		
3	【到達目標】 オペレッタ活動 保育所・幼稚園におけるオペレッタ活動について。「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)			11	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。製作班の修正。		
4	【到達目標】 オペレッタ活動 保育所・幼稚園におけるオペレッタ活動について。「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)			12	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…うた、ダンス、フォーメーション、演出。オペレッタ発表会当日の流れ確認。		
5	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。製作物品(背景画、衣装、小物など)の重要性の理解。 【授業内容】 「竹取物語」…練習うた、ダンス、フォーメーション、演出。			13	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…うた、ダンス、フォーメーション、演出。製作班の仕上げ。		
6	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習(うた、せりふ、動き)演出。製作班の会議。			14	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。リハーサルを通して本番の流れをイメージする。 【授業内容】 「竹取物語」…うた、ダンス、フォーメーション、演出。リハーサル。		
7	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 「竹取物語」…練習…うた、ダンス、フォーメーション、演出。			15	【到達目標】 保育士科・演習系科目の集大成として、発表の場に臨み評価を得る。各人の役割を全うする。 【授業内容】 「竹取物語」…本番の披露をする(公開の発表会)。2027年2月2日(火)にオペレッタ発表会を開催。		
8	【到達目標】 オペレッタ活動「実際に演じる」ことで理解することとは何か。 【授業内容】 オペレッタ製作活動で各学生がグループの中でどのように貢献しているか。振り返りと今後の対策を考える。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子育て支援 Learning for Child care support system	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	八木 ゆかり
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 7限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
障がい児者施設、保育所保育士、保育園園長、保育アドバイザー、保護者支援等「保育・教育・福祉」分野での経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践事例を中心に習得できる授業を行う。 現場での業務経験を踏まえ、より実践的な子育て支援について伝えていく。本科目では、子育て支援についての理解を深め、具体的な事例をもとに支援の方法を考察し、支援方法と理解の視点を学び、現場に活かせる知識とスキルを習得する。グループワークを通し理解を深める。							
【到達目標】							
1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・子育て支援について学ぶ目的を知る ・子育て支援の制度的基盤を知る 【授業内容】 ・子育て支援とは ・事例を通して考察する(グループワーク)			9	【到達目標】 ・トラブルの際の対応の基本を理解する 【授業内容】 ・場面に応じた保護者とのコミュニケーション		
2	【到達目標】 ・子育て支援の意義を知り、理解する 【授業内容】 ・子育て支援の意義を事例を通し、考察する(グループワーク)			10	【到達目標】 ・様々な種類の文書があること、書き方の違いがあることを理解する ・保護者向けの文書の書き方の基本を知る 【授業内容】 ・文書を活用した子育て支援		
3	【到達目標】 ・子育て支援の基本的価値とは何かを知る ・子育て支援の基本的価値と倫理について理解する 【授業内容】 ・事例を通して考察する(グループワーク)			11	【到達目標】 ・通所施設で保育者が行う子育て支援の基本について知る 【授業内容】 ・通所施設における子育て支援		
4	【到達目標】 ・子育て支援の基本的姿勢について理解する 【授業内容】 ・保護者支援を行う上での心構えや態度について			12	【到達目標】 ・環境を通した子育て支援の方法の基本を理解する 【授業内容】 ・園内における環境		
5	【到達目標】 ・子育て支援の基本的技術を理解する 【授業内容】 ・子育て支援のプロセス			13	【到達目標】 ・特別な支援を必要とする保護者への支援を知る 【授業内容】 ・保護者に何らかの障がいがある家庭への支援		
6	【到達目標】 ・園内・園外との必要な連携と社会資源を知る 【授業内容】 ・複雑な家庭について ・様々な連携について			14	【到達目標】 これまでの14回の授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ確認する 【授業内容】 これまでの授業を振り返り、理解できなかった事柄を取り上げ、チームで考察する		
7	【到達目標】 ・問題の早期発見・早期対応のためにできることや必要なことを知る ・記録の取り方・活用方法を知る 【授業内容】 ・子育て支援における必要な記録・評価について			15	【到達目標】 ・ここまで習得してきた知識や考察ポイントを確認する 【授業内容】 ・定期試験 ・定期試験の振り返り		
8	【到達目標】 1回目～7回目までの内容を理解について振り返り、理解できなかった事柄を確認する 【授業内容】 ・中テスト ・中テストの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	障害児保育 Disabled Children Instruction	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	平田 純一
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 5限
学科・コース	保育士科(夜間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
福祉型障害児入所施設での実務経験10年以上児童発達支援管理責任者として働いている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目は、障害児保育の基本理念や歴史的変遷について理解を深め、個々の特性を理解し、その保育の実践や援助、家庭や関係機関との連携について学ぶ。学生はこの授業を通して障害のある子どもの保育の方法を知り、包括的な支援方法を学んでほしい。多様な発達特性を理解し、生きづらさや困り感を覚える子どもの環境や周囲のネットワークづくりの重要性を知り、連携の上で活かせる計画と記録の策定方法をグループワークを通して学べるように指導する。							
【到達目標】							
1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 障害児福祉の現場を肌で感じる(久美学園の見学)			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 多文化共生の保育を理解する 【授業内容】 オリエンテーション・講師自己紹介 多文化共生保育、グループワーク			9	【到達目標】 障害児福祉の現場を肌で感じる 【授業内容】 福祉型障害児入所施設久美学園の見学		
2	【到達目標】 子どもの貧困に関して理解する 【授業内容】 貧困の背景とは 保育園における貧困支援、グループワーク			10	【到達目標】 就学までの流れを理解する 【授業内容】 障害のある子どもが学ぶ場とは 個人ワーク		
3	【到達目標】 子ども同士の関わり合いと育ち愛の理解 【授業内容】 子ども同士が育ち合う為に必要なこととは グループワーク			11	【到達目標】 インクルーシブ教育を理解する 【授業内容】 インクルーシブ教育とは グループワーク		
4	【到達目標】 行動の捉え方を理解する 【授業内容】 三項随応、アセスメントとは グループワーク			12	【到達目標】 保育・医療における現状と課題を理解する 【授業内容】 医療的ケア児の支援 グループワーク		
5	【到達目標】 個別支援計画の理解 【授業内容】 個別支援計画とは 個人ワーク			13	【到達目標】 障害児支援における法制度を理解する 【授業内容】 子ども家庭庁とは グループワーク		
6	【到達目標】 保護者や家族に対する支援を理解する 【授業内容】 子どもの障害についての親の障害受容 グループワーク			14	【到達目標】 社会人としての心構え 【授業内容】 福祉職員初任者キャリアパスの考え方 個人ワーク		
7	【到達目標】 保護者との連携について理解する 【授業内容】 保護者との連携の進め方と必要性 グループワーク			15	【到達目標】 後期の振り返り 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 障害児支援制度の理解 【授業内容】 障害児が利用できる福祉制度 個人ワーク			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育内容演習 Seminar for Contents of Early Childhood Care and Education	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	遠藤 美樹
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 6限
学科・コース	保育士科(夜間主コース)						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
保育士資格、幼稚園教諭取得後、保育園で10年勤務し2024年から埼玉福祉保育医療専門学校の保育科で保育内容演習、保育内容実践の授業経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
本科目は、子どもの発達に必要な活動について、学生自身が計画・実践・振り返りを行い、実践的に学ぶ。学生はこの授業から保育の理解を深め、現場力を身につけて欲しい。また、グループワークを通じて保育現場で必要な相互理解の力を養って欲しい。							
【到達目標】							
1. 総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、保育の内容について具体的に理解する。 3. 子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実践について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 後期の授業の概要を理解する。 4～5歳児の発達から見た制作の決め方を知り、作り方を覚える。 【授業内容】 オリエンテーション 10月の制作4～5歳『ハロウィン』			9	【到達目標】 ビデオを通し、発表会の流れやねらい、題材の選び方を知る。 発表会を行うねらいや当日までのスケジュール、職員配置を決める。 【授業内容】 発表会の指導案作成		
2	【到達目標】 5領域が保育の中でどう取り入れているかを知る。 自然物を使い10月の制作を考え発表する。 【授業内容】 5領域の考え方について 自然物を使った制作について			10	【到達目標】 発表会を行うねらいや当日までのスケジュール、職員配置を決め準備を行う。 【授業内容】 発表会の指導案作成・準備		
3	【到達目標】 子どもや保護者の対応について事例を基に皆で話し合を行い物事に優先順位を付ける。 【授業内容】 実際の事例を基に対策を立てる			11	【到達目標】 保育者役は個性を大切に、表現する楽しさを感じられるような関りを行う。 子ども役は対象年齢にあった行動をする。 【授業内容】 全体練習		
4	【到達目標】 個人面談を体験し、コミュニケーション能力を培う。 年長児の担任の職務、幼保連携協議会について知る。 【授業内容】 個人面談実践 要録作成			12	【到達目標】 演目の最終調整を行い、本番に臨む。 保育者役同士連携を取り、臨機応変に対応する。 【授業内容】 全体リハーサル		
5	【到達目標】 実際に行った5歳児・2歳児の懇談会に参加し、保育者が意識している点や保護者に伝えたいことを踏まえ資料を作成する。 【授業内容】 懇談会体験 懇談会資料作成			13	【到達目標】 子ども役が安心して自己表現できる環境を作り、今までの学びを発揮し発表会を実践する。 【授業内容】 定期試験：発表会		
6	【到達目標】 実際に行った5歳児・2歳児の懇談会に参加し、保育者が意識している点や保護者に伝えたいことを踏まえ資料を作成し予行練習を行う。 【授業内容】 懇談会体験 懇談会資料作成資料・練習			14	【到達目標】 子ども役が安心して自己表現できる環境を作り、今までの学びを発揮し発表会を実践する。 【授業内容】 定期試験：発表会		
7	【到達目標】 懇談会に望む前の準備は万全で、保護者全体に伝えるため分かりやすく和やかな雰囲気になるよう意識した環境を作る。 【授業内容】 中間試験： 懇談会実践			15	【到達目標】 仲間との学びを共有し支え合う大切さとこれからも学び続ける姿勢を持ち保育者としての第一歩に繋げる。 【授業内容】 卒業式体験・お楽しみ会・評価返却		
8	【到達目標】 懇談会に望む前の準備は万全で、保護者全体に伝えるため分かりやすく和やかな雰囲気になるよう意識した環境を作る。 【授業内容】 中間試験： 懇談会実践			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	保育実践演習 Professional skill	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	遠藤 美樹
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 7限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 保育士資格、幼稚園教諭取得後、保育園で10年勤務し2024年から埼玉福祉保育医療専門学校の保育科で保育内容演習、保育内容実践の授業経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、子どもの発達に必要な活動について、学生自身が計画・実践・振り返りを行い、実践的に学ぶ。学生はこの授業から保育の理解を深め、現場力を身につけて欲しい。また、グループワークを通じて保育現場で必要な相互理解の力を養って欲しい。							
【到達目標】 1. 保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 3. 自己の課題を明確化し、保育に必要な基礎的な資質、能力を定着させる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」(チャイルド社)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 後期の授業の概要を理解する。 4～5歳児の発達から見た制作の決め方を知り、作り方を覚える。 【授業内容】 オリエンテーション 10月の制作4～5歳『ハロウィン』			9	【到達目標】 ビデオを通し、発表会の流れやねらい、題材の選び方を知る。 発表会を行うねらいや当日までのスケジュール、職員配置を決める。 【授業内容】 発表会の指導案作成		
2	【到達目標】 5領域が保育の中でどう取り入れているかを知る。 自然物を使い10月の制作を考え発表する。 【授業内容】 5領域の考え方について 自然物を使った制作について			10	【到達目標】 発表会を行うねらいや当日までのスケジュール、職員配置を決め準備を行う。 【授業内容】 発表会の指導案作成・準備		
3	【到達目標】 子どもや保護者の対応について事例を基に皆で話し合いを行い物事に優先順位を付ける。 【授業内容】 実際の事例を基に対策を立てる			11	【到達目標】 保育者役は個性を大切に、表現する楽しさを感じられるような関りを行う。 子ども役は対象年齢にあった行動をする。 【授業内容】 全体練習		
4	【到達目標】 個人面談を体験し、コミュニケーション能力を培う。 年長児の担任の職務、幼保連携協議会について知る。 【授業内容】 個人面談実践 要録作成			12	【到達目標】 演目の最終調整を行い、本番に臨む。 保育者役同士連携を取り、臨機応変に対応する。 【授業内容】 全体リハーサル		
5	【到達目標】 実際に行った5歳児・2歳児の懇談会に参加し、保育者が意識している点や保護者に伝えたいことを踏まえ資料を作成する。 【授業内容】 懇談会体験 懇談会資料作成			13	【到達目標】 子ども役が安心して自己表現できる環境を作り、今までの学びを発揮し発表会を実践する。 【授業内容】 定期試験:発表会		
6	【到達目標】 実際に行った5歳児・2歳児の懇談会に参加し、保育者が意識している点や保護者に伝えたいことを踏まえ資料を作成し予行練習を行う。 【授業内容】 懇談会体験 懇談会資料作成資料・練習			14	【到達目標】 子ども役が安心して自己表現できる環境を作り、今までの学びを発揮し発表会を実践する。 【授業内容】 定期試験:発表会		
7	【到達目標】 懇談会に望む前の準備は万全で、保護者全体に伝えるため分かりやすく和やかな雰囲気になるよう意識した環境を作る。 【授業内容】 中間試験: 懇談会実践			15	【到達目標】 仲間との学びを共有し支え合う大切さとこれからも学び続ける姿勢を持ち保育者としての第一歩に繋げる。 【授業内容】 卒業式体験・お楽しみ会・評価返却		
8	【到達目標】 懇談会に望む前の準備は万全で、保護者全体に伝えるため分かりやすく和やかな雰囲気になるよう意識した環境を作る。 【授業内容】 中間試験: 懇談会実践			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	こども体操教室 Child Cram School	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	佐藤 直美
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	実技	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 5・6限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
幼児体育指導員として39年間携わり現在も幼稚園・保育園で指導を実施し会社経営及び幼稚園園長を務める。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
自らの目指す専門職として身につけることは何かを考えながら受講してほしい。実技がメインとなる授業のため、健康に留意し積極的に体を動かし授業に臨んでほしい。							
【到達目標】							
・子どもの健康指導及び支援のできる保育者を目指し、その指導法を身につけることができる ・実践的な保育活動の準備やプログラム立案を含め習得することができる ・立案した運動指導計画を基に、子ども体操教室の実践・振りかえりを行うことができる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「元気な子どもを育てる幼児体育」(教科書)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業のねらいと見通しをもち期待感を膨らませる。 【授業内容】 運動領域の区分を再確認しカリキュラム作成に繋げる・様々な運動種目をする			9	【到達目標】 ボール運動について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 ボール運動の段階整理・想像性を膨らませたストーリーの作成と実施		
2	【到達目標】 徒手運動について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 徒手運動について・徒手運動の実践・主体運動に繋げる徒手運動とは			10	【到達目標】 ながなわ運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 ながなわ運動の段階整理・想像性を土し膨らませたストーリーの作成と実施		
3	【到達目標】 マット運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 マット運動の段階整理・想像性を膨らませるストーリーの作成と実施			11	【到達目標】 短なわ運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 短なわ運動の段階整理・想像性を膨らませたストーリーの作成と実施		
4	【到達目標】 とび箱運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 とび箱運動の段階整理・想像性を膨らませたストーリーの作成と実施			12	【到達目標】 身近な教材を使った運動遊びを理解する。 【授業内容】 身近な教材(新聞紙)を使った運動遊びを考えて実践		
5	【到達目標】 平均台運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 平均台運動の段階整理・想像性を膨らませたストーリーを作成と実施			13	【到達目標】 リズム運動(ダンス・チアダンス)の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 リズム運動の目的を知り、演技を作成し実施		
6	【到達目標】 鉄棒運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 鉄棒運動の段階整理・想像性を膨らませたストーリーの作成と実施			14	【到達目標】 野外活動が幼児に与える影響について理解する。 【授業内容】 幼児に必要な野外活動体験について考える		
7	【到達目標】 布玉運動の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 布玉運動の段階整理・想像性を膨らませたストーリーの作成と実施			15	【到達目標】 カリキュラムを作成する。 【授業内容】 作品発表・注意点についての解説		
8	【到達目標】 プール(水泳)指導の特性について理解し指導方法を知る。 【授業内容】 水泳指導の段階整理・想像性を膨らませたストーリーの作成と実施・段階に応じた指導方法			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	子どもの理解と援助 Understanding and care for child	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	八木ゆかり
学科・コース	保育士科(夜間主コース)	授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 7限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
障害児者施設の福祉指導員、保育園保育母、保育園園長、保育アドバイザー等「保育・教育・福祉」分野での経験を持つ。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
「保育・教育・福祉」分野での経験を活かし、現場力(柔軟な対応、実践的な支援・チーム力等)の知識・技術をグループワーク・実践事例を中心に習得できる授業を行う。 保育実践に関わる子どもの発達に関する知識や子どもの理解と援助法について、体系的に学びを習得する。これまでの実習等の体験を振り返るとともに、これから出会う子どもとの関わりをイメージしながら演習課題に取り組む。観察力、対応力、創意工夫、臨機応変な思考力を身に付けていけるよう学んでいく。							
【到達目標】							
1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】 授業で取り上げた事例や自身の実習等の体験を振り返るなど、常に問題意識を持つ			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・保育における子ども理解の意義を理解する ・子ども理解に基づく養護および教育の一体的展開を理解する 【授業内容】 ・保育所保育指針で求められている子ども理解について学ぶ ・事例を通して考察する(グループワーク)			9	【到達目標】 ・乳幼児にとつての環境の変化や移行について理解を深める 【授業内容】 ・保育場面で想定される環境の変化や移行場面を取り上げ、子どもの心の動きやその子どもへの援助についてグループワークにて考察する		
2	【到達目標】 ・子どもに対する共感的理解とかかわりについて考察する 【授業内容】 ・共感的理解について、事例を通しグループワークにて考察する			10	【到達目標】 ・子ども理解のための観察・記録と省察・評価について理解する 【授業内容】 ・観察や発達検査、保育のプロセスを評価する方法について学ぶ		
3	【到達目標】 ・子どもの生活やあそびについて誓いを深める 【授業内容】 ・乳幼児の生活と基本的な生活習慣の獲得や乳幼児期の子どもにとつてのあそびの意義を事例を通して考察する(グループワーク)			11	【到達目標】 ・子ども理解のための職員間の対話・協働の重要性について理解する 【授業内容】 ・保育士間の対話・協働とはどのようなことをグループワークにて考察する		
4	【到達目標】 ・人的環境としての保育士は子どもの発達にどのように影響を与えるか、理解する 【授業内容】 ・保育士のかかわりで子どもが変わっていくことを、事例を通し考察する(グループワーク)			12	【到達目標】 ・子ども理解のための保護者との情報共有について理解する 【授業内容】 ・保育士と保護者間に『子どもの見方や捉え方』にズレがあることを踏まえ、保護者との情報共有の意義や具体的な方法について考察する		
5	【到達目標】 ・子ども同士のかかわりについて、かかわりの『きっかけ』や『継続』するための保育士の役割について理解する 【授業内容】 ・発達年齢による子ども同士のかかわり方の違いや、あそびを通したかかわりについて考察する(グループワーク)			13	【到達目標】 ・発達の課題に応じた援助とかかわりについて理解する 【授業内容】 ・個人差、個々の発達差を通し、それぞれの課題に応じた援助と関わりについて考察する(グループワーク)		
6	【到達目標】 ・集団における経験と育ちについて考え、理解する 【授業内容】 ・集団あそびの成立や発展における保育士の援助について、実習等の体験をもとに具体的に考察する(グループワーク)			14	【到達目標】 ・特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解を深める ・発達の連続性と就学への支援について理解する 【授業内容】 ・特別な配慮を要する子どもへの配慮と援助、支援体制、保幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性について学ぶ		
7	【到達目標】 ・自我の発達による様々な葛藤やトラブルにおける保育士の援助について理解する 【授業内容】 ・実習等の体験を事例とし、考察する(グループワーク)			15	【到達目標】 ・これまで習得してきた知識や考察ポイントを確認する 【授業内容】 ・定期試験 ・定期試験の振り返り		
8	【到達目標】 ・1回目～7回目までの内容の理解について振り返り、理解できなかった事柄を確認する 【授業内容】 ・中テスト ・中テストの振り返り			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							